

# スイッチの適合（最終回）

## キネックス（Modentec社）を操作



テレビチューナ付のパソコンを使用しており、ECSでテレビとパソコンの切り替え制御を行なっている。目的に応じてスイッチを使い分けている。

## Fさん 頭部外傷

### フィンガースイッチ（特注）



16歳の時、交通事故に巻き込まれて2年間植物人間の状態であったFさん。

その後は母親とのやり取りをまばたきで「Yes, No」を行なうようになったが、当時は周囲から本人の発信で

あることの理解が得られない状況であった。

最初にFさんが母親に文字盤で伝えた言葉は「コーヒーがのみたい」。初対面時は、筆者の適合技術が低能力であったこと、スイッチのラインナップが少ない状況下でもあり、使用は困難と判断された。その後の訓練を経てコミュニケーションエイドが導入され、1入力方式でのECSを使用する生活へと変化した。作業所では「キネックス」を用いて会報作成の担当をしている。

### 透明文字盤



本人側が鏡文字となった状態で使用している文字盤。現在は、透明文字盤を使用することなく家族が「あかさたな」を読み上げる方式で会話を行なっている。

## Mさん 多発性硬化症（MS）

キネックスで文章作成やメール操作を行ない、環境制御装置をオートスキャン方式で操作している。

作業療法士の紹介からのECS導入で生活が激変した。ベッドアップの制約や首の回旋の制約などを受けているが、体調と相談しながら使用している。

## 病棟での使用



導入時はスペックスイッチであったが、設置調整の難易度が高いため、ファイバースイッチとグーズネック固定方式に変更をしている。

位置の調整が煩雑であるため、常時設置の状況にはなっておらず、スイッチの選定に課題を残している。

視力の問題もあり、パソコンの基本操作はke:nx画面位置などを全て記憶して操作を行なっている。

インターネットで必要な情報を収集し、いろいろと質問メールを送って来ている。

## Kさん 頸椎損傷

### 環境制御装置での制御内容一覧



制御内容が確認できるように天井に一覧表を貼り付けている。二種類のECSの組合せで多数の家庭電化製品を制御しており、ベッドの制御を日常的に行なっている。

導入当初の制御機器内容は20程度であったが、ECS使用の生活の中で増設型の組合せと変化していった。

### ヘッドマスター



パソコンの使用についても関係者からの相談でつい最近導入された。ヘッドマスターの操作に関しても多くの時間を費やすことなく、使用が可能であった。